

## 広島平和記念式典派遣事業の感想

村松桜中学校 3年 岡田 英大

私は、この事業に参加するまで、あまり広島原爆について知りませんでした。ただ、自分の中に「8月6日にアメリカによって広島へ原爆が落とされた。」という事実だけがあるだけでした。しかし、この3日間を通して、私は、実際に起こったことなのだ実感し、平和というものの尊さについて深く知ることができ、私の中で広島原爆は、より濃いものとして残っていくようになりました。

この3日間で特に記憶に残ったものは、1日目の平和記念資料館の見学と、2日目の広島市舟入高等学校の演劇鑑賞です。資料館では、実際の被害の様子や被害者の思いを絵や写真、メッセージなどを通して知ることができました。中でも心に残っているのは、原爆で重傷を負ったお母さんから娘さんへ向けた実際の手紙です。内容は簡単にまとめると、「元気でみんなから好かれる子に育ててください。さようなら。」というものだった。最後に、自分の娘に対して、あまり心配させぬように別れを告げた所から、最後まで娘のことを思っていたんだなと感じると同時に、育てることができずに無念だったろうなとも感じました。全て見学し終えて、二度と起こしてはならないことだと再認識しました。

2日目の演劇では、素晴らしい劇の中で、私たちにあるメッセージが送られました。それは、「大切なのは広島原爆だけじゃない」という事でした。平和を実現させるなら、広島のことだけではなく、今も起きている紛争などにも目を向けなければいけない。私は劇が終わった後、それが強く、心の中に残っていました。

この3日間から様々なことを学び、私はこれから大切にしていけるべきことは、戦争がこれ以上起きぬよう、平和を守り、広げていくことだと思いました。